

令和8年度 技術開発課題概要一覧表

中部森林管理局

NO	課 題 名	新・継	開発箇所	担当署等	開発期間	目 的	
局技術開発課題	1	湿性ポドゾル地帯の更新法 ー三浦・助六実験林ー	継続	木曾署	木曾森林管理署 木曾森林ふれあい推進センター 技術普及課 信州大学	(長期)	せき悪な土壌（湿性ポドゾル）地帯での天然更新による温帯性針葉樹林の復元技術の確立に向け、「天然更新」の初期段階に引き続き「森林成立」の初期段階の林分構成とその遷移動向を見ていくために、長期の固定試験地を設定しデータの蓄積を行う。また、ササ生地での効果的かつ確実なヒノキ天然更新技術の確立に向けて、薬剤散布と筋刈りを組み合わせ合わせた更新補助作業試験を継続し、更新が進まない条件の悪い箇所における天然更新方法の開発を行う。
	2	多様性に配慮した皆伐初期保育方法の検証	継続	中信署 東信署 愛知所	中信森林管理署 東信森林管理署 愛知森林管理事務所 森林整備課 技術普及課	R4～R8 (短期) 完了課題	人工造林地において、多様性を図るため、植栽木と併せて天然更新による広葉樹等を活用し混交林へと育成するにあたり、造林木の植栽方法や保育方法により、低コストで確実な更新の初期保育手法について検証を行う。
	3	コウヨウザンの成長速度と生育適地の把握及び下刈省略による初期保育技術の検討	継続	岐阜署	森林技術・支援センター 岐阜県森林研究所 森林総合研究所 林木育種センター	R4～R9 (短期)	スギと同程度の強度を有し比較的短期間で成長・収穫できるとされる「コウヨウザン」については、岐阜県内では植栽事例のある標高400m程度未満の暖温帯域が生育に適するとされているが、高標高（500～1000m）の温帯域における成長適正について検証を行う。併せて再造林の低コストに向けた検証を行う。
	4	ヒノキ単層林への侵入広葉樹を活用した効率的な針広混交林造成	継続	東濃署	森林技術・支援センター 岐阜県森林研究所	R6～R10 (短期)	人工林の育成を目指して植栽したが、植栽した針葉樹の成長があまりよくなく、かつ広葉樹の侵入・成長が旺盛であり、混交林化（多様な森）が期待できる造林地について、地拵の状況、有用広葉樹の侵入状況、雑草木の回復状況等諸条件の違いによる造林木と侵入広葉樹の成長を下刈期から追跡調査し、どの段階で混交林化への施業に切り替えるか、また、その場合の施業方法を探るため、植栽木、侵入した有用広葉樹とも成長が期待できる保育方法の確立を目指す。
林野庁統一課題	超緩効性肥料を用いたエリートツリー等コンテナ苗の活用	継続	飛騨署 岐阜署	森林技術・支援センター 飛騨森林管理署 森林整備課 岐阜森林管理署 技術普及課	R7～R12 中間報告： R9	エリートツリー等コンテナ苗（特定苗木を含む）については、下刈り回数の縮減による造林の省力化・低コスト化等が期待され、今後、供給体制が整備されてくるものと考えられる。一方で、その能力を十分に発揮するためには土壌や微地形等が影響するとの調査結果もあり、特にエリートツリー等が良好に成長するには、成長初期に十分な養分が必要と想定される。 植栽後も効果を発揮する超緩効性肥料を用いたエリートツリー等コンテナ苗の成長促進効果、植栽適地等の検証を行うとともに、5年後の実用化を念頭に再造林の低コスト化の可能性について検証する。	